

英語Ⅲ(医療英語基礎)

講義 第4学年 前期 必修 1単位

【概要】

現在の日本の医療分野においては、最先端の医療情報を積極的に収集するために、臨床検査技師も、医学誌・論文での学習、論文の執筆、国際学会での発表など英語が必要とされる局面が増えてきている。そのため、医療分野に関する様々な課題をもとにリーディングを中心に演習を行い、将来的に国際的に活躍できる臨床検査技師を目指し、医療分野の英文や論文に特有な英語に慣れ親しみ、理解する。基礎的英語力と医学の専門知識を高めることで、基礎科学から最新の医学知識を学ぶ読解力の向上を目指す。

関係法規

講義 第4学年 前期 必修 1単位

【概要】

臨床検査技師等に関する法規について理解し、業務範囲や医療過誤とその防止にむけた対策について理解する。また、臨床検査技師以外の保健医療関係者や食品衛生に関する法規を理解しチーム医療への理解を深める。本講義では1)法の概念・種類、2)臨床検査技師の業務制限と業務範囲、3)臨床検査技師および他の医療職に関する法規について、4)個人情報保護法の概要、5)医療過誤について、6)予防・保健医療に関する法規

臨床検査医学総論演習

演習 第4学年 前期 必修 1単位

【概要】

臨床検査の臨床的意義や重要性を理解するためには、様々な病気に関する知識とその病気を診断するために必要な検査や検査結果の解釈について総合的に理解する必要がある。本演習は臨床病態学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだ様々な病気に関する知識と各種臨床検査に関する専門的な講義・実習で学んだ知識と技術を整理し関連づけることにより、病気という視点から広く臨床検査を理解することを目的としている。本演習は今までに学んだことを振り返りつつ、それに関連する演習問題やR-CPCなどを活用し理解度を確認しながら授業を進めていく。

臨床血液学演習

演習 第4学年 通年 必修 1単位

【概要】

本演習は2・3年次に行われた臨床血液学 I、臨床血液学 II と臨床血液学実習で学んだ、血液細胞と血栓・止血関連の検査に対する知識を再確認するとともに、多くの臨床症例を検討することで、総合的に理解力を向上させる。さらに、基礎的および臨床的な問題、特に血球細胞の塗抹像を反復して観察することで臨床血液学についてより理解を深め、卒業後に臨床検査技師として必要とされる基礎的および臨床的な血液検査の知識を得る。

臨床細胞病理学演習

演習 第4学年 通年 必修 1単位

【概要】

病理診断学、細胞診断学とは疾患の本態を主として形態学的な立場から探求する学問であり、基礎医学(解剖学・生理学・生化学など)と、臨床医学(疾患の診断・治療を探求する)をつなぐ位置を占めている。これまで習得してきた解剖学、臨床病理検査学、臨床細胞診断学、臨床細胞病理学実習の知識を基に、人体病理学、外科病理診断学、細胞診断学、分子病理診断学について総合的に理解することを目的とする。

臨床化学演習

演習 第4学年 通年 必修 1単位

【概要】

これまでに、血液、尿など身体の試料(体液)を対象に量や性質を分析して病気の診断や治療効果の評価を行うための化学的な手法を習得してきた。臨床現場では、分析結果の正確性や迅速性に加え、複数の項目を同時に効率よく組み合わせて測定して全身状態を把握する必要がある。それには測定原理、採取容器の選択、物質の安定性や測定試薬同士のコンタミネーションなど、臨床化学の様々な知識を総合的に考慮することが求められる。本演習では、臨床化学を臨床の場で活かすためのマネジメントを行う上で必要な知識を理解することを目的とする。

臨床検査学総論演習

演習 第4学年 通年 必修 1単位

【概要】

臨床検査学総論 I、臨床検査学総論 II、臨床検査学実習、臨床実習で習得した知識を整理し、さらに、総合的な知識や理解力を高めるために振り返りの授業をおこなう。本講義では様々な演習問題や Reversed Clinicopathological Conference(R-CPC)を通して、卒業後に臨床検査技師として必要とされる一般検査の知識ならびに一般検査と他の臨床検査との関連について学習する。

免疫検査学演習

演習 第4学年 通年 必修 1単位

【概要】

免疫システムは生体防御の中心的役割を果たしておりその破綻により様々な疾患が引き起こされる。これまでに免疫検査学 I および II、輸血・移植学演習において様々な知識を習得し、さらに実習を通じて免疫学および輸血学の基本的なしくみを自らの手で確認してきた。しかしながら、臨床現場において免疫異常が関わる疾患を理解する上では、これまで学んだ知識をさらに有機的に連結していく必要がある。そこで本講義では、国家試験過去問などを活用して免疫学、輸血学領域について様々な視点から眺めることで、免疫学、輸血学について統合的に理解することを目的とする。

臨床微生物学演習

演習 第4学年 通年 必修 1単位

【概要】

現代社会の脅威となる感染症を克服するために、これまでに微生物学および臨床微生物学において様々な知識を習得し、さらに微生物学実習を通じて微生物の基本的な性状を自らの手で確認してきた。しかしながら、臨床現場において微生物感染症対策を実践していくうえでは、これまで学んだ知識をさらに有機的に連結していく必要がある。そこで本講義では、微生物学および臨床微生物学の境界を取り払い、様々な視点から微生物感染症を眺めることで、微生物について統合的に理解することを目的とする。

臨床生理学演習

演習 第4学年 通年 必修 1単位

【概要】

生理学的検査の中心となる脳神経系・循環器系・呼吸器系・聴覚系を各講義で学び、解剖を始め、様々な生理的機能、そして疾患・病態について学んできた。さらに各機能を評価するために生理学検査の装置、検査手技、計測方法を習得してきた。これらを臨床の現場で実践できるようにするために、総合的に理解を深める必要がある。画像解析や各検査で得られた波形や検査結果の臨床的意義を理解し、医療現場に精度の高い結果を提供できる判断力を養う。弱点分野を克服し安定した実力を身に付け、生理検査学を総合的に学習する。

保健医療福祉演習

演習 第4学年 前期 必修 1単位

【概要】

臨床検査の現場では認知症を持つ高齢者、精神的障害、発達障害をもつ患者に接する機会が多い。チーム医療や在宅医療を進める上で臨床検査技師は検査技術だけではなく、医療人として様々な患者の精神的、身体的状態を理解するなど福祉に対する基本的な理解が必要である。本授業では保健・医療・福祉とは何かを学習した上で、高齢者(認知症を含む)、発達障害(自閉症など)、精神障害について講義や疑似体験を通して福祉の現状、患者の病態や気持ち、接し方を理解する。それによって、検査現場のみならず福祉分野において臨床検査技師として貢献できることをグループディスカッションにより考えることを目的とする。

総合臨床検査学演習Ⅱ

演習 第4学年 前期 必修 1単位

【概要】

学内外での講義や実習で得た知識を元に、臨床検査技師としての応用力を身につける。本講義では1)検査管理、2)関係法規、3)医動物、4)遺伝子検査、5)医療情報、6)医用工学概論、7)検査機器について学習する。

総合臨床検査学演習Ⅲ

演習 第4学年 後期 必修 4単位

【概要】

国家試験の対象となる全分野について、過去の国家試験問題および予想問題を中心に総合的に学習することで臨床検査全体のより深い知識を得る。本講義では1)医用工学概論、情報科学概論、検査機器総論、2)公衆衛生学、関係法規、医学概論、3)臨床検査医学総論、臨床医学総論、4)臨床検査総論、検査管理総論、医動物学、5)病理組織細胞学、解剖学、病理学、6)臨床生理学、生理学、7)臨床化学、生化学、RI技術学、8)臨床血液学、9)臨床微生物学、微生物学、10)臨床免疫学に関わる内容について総合的に学習する。

医療安全管理学演習Ⅱ

演習 第4学年 後期 必修 2単位

【概要】

医療現場では、些細なミスやその重なりが過誤または事故に繋がる可能性がある。一方で、近年の法改正により、臨床検査技師が担う業務内容が拡大した。臨床検査技師による検体採取や検査補助は、質の高い検査精度の保証を担保する上で重要である一方で、医療事故が起こる可能性もある。本演習は、安全管理に必要な知識および技術の習得、さらに検体採取(採血を除く)に必要な知識と技術習得を目的とする。また、実習では、皮膚表在組織病変部からの検体採取、咽頭・鼻腔拭い液の採取、および鼻腔吸引液の採取等を、学生間でおこない、採取者および患者両面の立場・気持ちを理解する。

卒業研究

研究 第4学年 通年 必修 6単位

【概要】

1-4年生で学んだ知識および技術を基盤として、臨床検査学に関する基礎、臨床、応用的な研究に取り組む。医学研究における臨床検査の位置づけを理解し、研究に取り組む姿勢、研究目的を達成するための実験計画の作製、研究データの解釈と処理方法、研究成果の発表方法(学会発表、論文作成)を学び、プレゼンテーションおよびディスカッションから研究の意義と問題点について考察する力を養う。本セミナーでは1)学術論文の検索方法、2)学術論文抄読、3)実験計画書作成、4)調査・研究、5)実験ゼミ、6)発表スライド作製・発表を行い研究方法について学習する。学科の全教員が担当する。

食品衛生学

講義 第4学年 前期 選択 1単位

【概要】

環境衛生が向上した現代においても、食品由来による健康被害は報告されており、死に至る症例も報告されている。これらに対処するために、科学的根拠に基づいた原因及び適切な予防法に関する知識が必要である。食品の適切な衛生管理法および食中毒の種類と原因を、科学的根拠の基づき学修する。本講義では、食品衛生の定義、細菌性食中毒(毒素型および感染型)、ウイルス性食中毒、自然毒食中毒(動物性および植物性)、マイコトキシン、発がん物質、食品添加物について学修する。